

【巻 頭 言】

大学院学校臨床心理専攻・学校臨床心理専修 20年間の歩み

植 木 克 美

(北海道教育大学大学院教育学研究科学校臨床心理専攻 専攻長)

北海道教育大学大学院教育学研究科修士課程「学校臨床心理専攻」は、今年度、入学生9名を迎え、全員で28名の大学院生が学んでいます。大学院生の皆さんは現職教員、社会人、そして将来、教員や学校教育を支える心理職等を目指し、心理臨床、教育臨床、発達臨床の各領域における専門的研究を深め、援助を必要とする幼児児童生徒に対して支援を有効に行える高度な専門的能力を身につけたいとの高い意識をもっています。これからの学校教育を、そして子どもたちの健やかな成長発達を支えるメンバーとして、大学院生の皆さんの活躍が期待されます。

顧みますと、学校臨床心理専攻は20年以上の歴史を持ち、これまでの教育研究活動を財産として歩みを止めることなく新たな歴史をつくり続けています。学校臨床心理専攻の研究誌『学校臨床心理学研究 第19号』発刊に寄せ、これまでの歴史をふりかえることで、次の10年を見通す1つの布石としたいと思います。

1 沿革

修士課程独立専攻「学校臨床心理専攻」は札幌校にベースを置き、広域な北海道各地に勤務する現職教員に対する研修の便宜を図るために、遠隔地にある函館校、旭川校、および釧路校にサテライトキャンパスを置く全学組織の専攻として、平成14（2002）年に産声をあげました。

当時、喫緊の教育課題であったいじめ・不登校・非行・自殺・学級崩壊、および「学習障害」「注意欠陥多動性障害」など、北海道における学校教育の課題解決に本学が貢献するために、主として現職教員、学校教育を支える社会人のリカレント教育を目的とした高度な実践的教育活動および指導力の養成を目指し、昼夜開講制により入学定員9名で発足しました。

専攻としての一体性を確保するための手段として遠隔教育を可能とする体制を、教育指導の一体化、双方向遠隔授業システム、教員組織の一体化により行うこととしました。現在ではコロナ禍への対応として、オンライン会議アプリケーションを活用した授業を駆使し、大学院生が自宅等で履修できる学習環境を整えています。比較的スムーズにオンライン授業を駆動できているのは、発足当初から遠隔教育を実施していた本専攻の実績があったからであると考えます。

教員スタッフは、学校臨床心理学講座（基幹講座）および協力講座の専任教員と学内の兼任教員、学外講師により組織されています。設置時の専任教員スタッフは次の通りです。

〈設置時の構成と専任教員スタッフ〉

○基幹講座〔学校臨床心理・臨床生徒指導〕

後藤守教授（学校臨床心理特論），庄井良信助教授（臨床生徒指導特論）

○協力講座〔教育学・教育心理学・幼児教育・幼児心理学・臨床心理・心身相談〕

内島貞雄教授（教育指導論特別演習），奥山洸教授（教育心理学特別演習）

藤友雄暉教授（発達臨床心理学特別演習），三上勝夫教授（実践教育内容・方法特論）

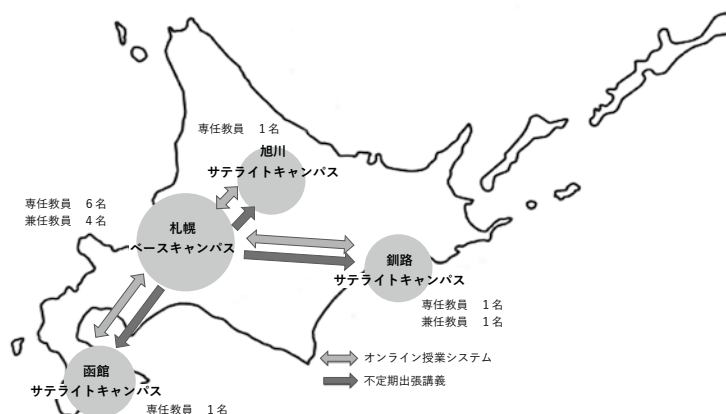
金澤克美助教授（臨床発達心理学特論），酒井久実代助教授（臨床心理基礎実習）

佐藤由佳利助教授（臨床心理面接特論Ⅰ），平野直己助教授（臨床心理学特論Ⅱ）

森範行助教授（臨床心理査定演習Ⅰ）

※（ ）内は主な担当科目

図は専攻の概要であり，教員組織は現行のものです．現在は，基幹講座の専任教員は佐藤由佳利教授，宮原順寛准教授，斎藤暢一朗准教授，植木の体制となっています．そして，旭川サテライトキャンパスの専任教員は内島貞雄教授から久能弘道教授へ，函館サテライトキャンパスの専任教員が藤友雄暉教授から本田真大准教授へとバトンが渡されています．釧路サテライトキャンパスでは，奥山洸教授から伊田勝憲准教授，さらに浅井継悟准教授へと専任教員のバトンが引き継がれています．そしてまた，札幌ベースキャンパスでは平野直己教授と，三上謙一准教授が専任教員として専攻の教育研究活動に力を注いでいます．



2 カリキュラム

設置時の開設授業科目には，必修科目4科目，選択科目36科目および課題研究2科目を配置していました．選択により臨床心理士と学校心理士受験資格を得ることが可能になっており，現行カリキュラムにも引き継がれています．このカリキュラムの特徴は，学校現場に即して臨床アプローチを理論的，実践的に展開することにあります．代表的な授業科目を例示すると，「臨床生徒指導特論」は，今日の生徒指導論（教育相談・キャリア教育を含む）の背景となっている基礎理論を，事例に即して協働省察し，発達援助に関する高度な実践力を高めることをめざしています．また，ベースキャンパスに大学院生を一堂に集めて集中により実施する「学校カウンセリング実地研究」では，

北海道立特別支援教育センターおよび札幌市教育センター、特別支援学校、通信制高等学校、児童発達支援センター等の教育・福祉専門機関との互恵的パートナーシップにより臨床的・実践的な諸問題を実地の事例を通して研究することとしていました。そして、課題研究および修士論文指導は、大学院生の個別の研究テーマに応じて、複数指導体制をとっています。

現行のカリキュラムは、必修科目4科目は堅持され、選択科目が28科目および課題研究1科目とカリキュラム・ポリシーに基づき再編されています。「学校教育学特論」及び「学校教育学特別演習」「臨床心理事例研究法特別演習」「臨床教育学質的研究法特論」という学校教育における臨床的課題にアプローチするための新設科目を開講しています。また、「学校カウンセリング実地研究」はより今日的な教育課題に対応するために「学校カウンセリング特別演習」に発展させて実施しています。さらに臨床心理実習は医療、教育、福祉といった複数の領域を確保しています。

3 特色と課題

本専攻は、これまでに289人の修了生を輩出し、教育臨床、心理臨床、発達臨床の各領域における専門的研究を深め、様々な心の問題の援助を必要とする児童・生徒に対して教育臨床的アプローチを有効に進めることのできる高度な専門職業人としての教員、そして、地域において学校教員と協働して心理的・福祉的ケアを担うことのできる人材を社会に送り出してきました。

多様化、複雑化する子どもの状況や学校教育の質的充実に対する社会的要請の高まりへの対応等、学校に求められる役割は拡大し、新たな教育課題への対応を学校現場は求め続けられています。これらの諸課題は、本専攻がこれまで、大学教員と大学院生、地域の学校、心理・福祉等の専門機関と築いてきた歴史のなかで創り出した叡智をもって対応することができます。全学組織としての本専攻は学部、教職大学院との関係を深め協働して、さらにこれらの課題解決に寄与することを課題としています。

学校臨床心理専攻が20年間の歴史を築けたのは、ベースキャンパスとサテライトキャンパスの関係者皆様の全面的支援があったことによります。歴代の本学学長をはじめとして、札幌校キャンパス長及び旭川校、釧路校、函館校、岩見沢校のキャンパス長、教職大学院長のご理解とご支援によるところが大きいです。そして、この20年間に渡り学びの場を教員と一緒に連綿と創り上げてきた修了生、在学院生の皆さんを抜きにして歴史を語ることはできません。ここに関係者皆様へ衷心よりお礼申し上げます。

『学校臨床心理学研究』は学校臨床心理専攻の教育研究の成果とこれからの専攻の取組を下支えするものとして発刊されてきたものです。学校臨床心理専攻は歴史をさらに重ねられるよう進んでいきます。

注：『学校臨床心理学研究』では2021年度には投稿論文の募集をしておりません。

また、本文は、北海道教育大学札幌校130周年記念誌に掲載した原稿をもとに作成しています。